

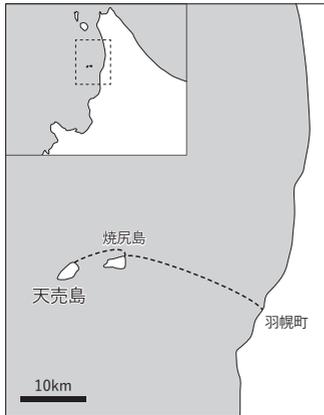
ゲストハウスを本業に、 通所介護など副業でも地域貢献

宇佐美 彰規

海鳥の帰巣に感動し移住を決意

私は、地域おこし協力隊になる前、一〇年間ほど毎年夏に天売島を訪れていました。夕暮れ、ウトウという海鳥が一斉に巣に戻る天売島ならではの絶景に感動したためです。当時から将来は島に住みたいと漠然と考えていたものの、何のツテもない場所に飛び込む勇氣はなく、夢物語で終わってしまうかと思っていました。そんな折、天売島での地域おこし協力隊の募集を知り好機だと思い、迷わず応募しました。

平成二五年に赴任し、任期中には、天売島の情報発信や観光イベントの手伝い、デイサービス（通所介護）の補助、漁業の手伝いなどさまざまな活動をしました。また、自分で考え



天売島（てうりとう）

羽幌港から28kmの日本海にある島。面積5.47km²、周囲11.6km、人口270人（2022年11月現在）。西海岸は断崖絶壁。対馬暖流の影響で比較的温暖で、住民のほとんどが漁業に従事。100万羽を超える海鳥が繁殖のために飛来、ウミガラス（オロロン鳥）の日本で唯一の営巣地。

た仕事として、スズメバチを駆除するためのトラップの設置、島内のウォーキングガイド、冬季のスノーシューツアーやキヤンドル作り体験などにも取り組みました。



天売島を世界最大の繁殖地とする海鳥ウトウ。

天売島初のゲストハウスを開業

島内には夏の短期間・不定期の仕事しかなかく、協力隊の任期終了後に定住するためには、自分で生業を作るしかありませんでした。自然や海鳥など、天売島のこともっと多くの人に知ってほしいという想いがあり、任期後は観光に関する仕事をしていきたいと考えていました。かつて天売島には宿泊施設がたくさんあり、昭和四十年代後半の離島ブームのピーク時には宿に入りきららないほどの観光客が押し寄せたそう

翌二六年からは、島の若者を中心とした「一般社団法人天売島おらが島活性化会議」の立ち上げメンバーとして、キャンプ場の新設やシーカヤックツアーの実施のほか、野良猫問題の対処や森林再生活用事業などにも参加しました。

です。しかし、私の任期が終わる頃には一〇軒ほどとなり、そのほとんどが後継者のいない状況でした。

私は、もともと古い建物や古民家が好きで、そこで暮らしたいと思っていたこともあり、空き家を再生して天売島初のゲストハウスをオープンすることにしました。ゲストハウスという形態にしたのは、若者や外国の方など既存の旅館・民宿とは違う客層を島に呼びたかったことや、島の魅力を伝えられる語らいの場を設けたからです。

苦労したのは、ゲストハウスとして改修する家を探すことでした。島内に空き家は多くあれど、住めるような状態ではなかったり、改修費が莫大にかかり

現実的でないものがほとんどでした。

条件に合う物件が見つかった場合でも、持ち主との交渉については、役場などの助けを借りずに自分で直接行なわなければなりませんでした。



ゲストハウス天宇礼の内観。



■ゲストハウス天宇礼

北海道苫前郡羽幌町天売弁天96

男女混合ドミトリ 素泊まり3,000円～



筆者近影。看板にもウトウが描かれている。

このような状況に陥った私を助けてくれたのは島の方々に、交渉の際に間に入っていただくこともありました。これは、協力隊の活動を通して、島での人間関係が築けたおかげです。

このほか、ゲストハウスの開業に向けては、島に建築や設備関係の会社がないため、島外の事業者に依頼せざるを得ず、その交通費や宿泊費など余計な費用がかかってしまうこと、保健所などの新規事業を立ち上げる際に必要な関係各所が遠く、気軽に相談できないといった離島ならではの不便さも実感しました。

平成二八年七月に「ゲストハウス天守礼^{てうしれ}」を開業しました。宿名は、天売島のもととなったアイヌ語の「テウレ・シリ」が由来です。「テウレ」は「足跡」を意味するという一説があり、さまざまな人々が足跡を残してくれるような宿にしたいという想いを込めました。

副業により生計を維持

幸いなことに、ゲストハウスはこれまでに学生やバードウォッチャー、ライダーなどたくさんのお客様に利用していただいております。港から徒歩一分の立地とアットホームな空間・雰囲気を入っていただき、リピーターも増えてきました。しかし、いまだ天売島の知名度は全国的に低く、北海道内でも知らない人や、知ってはいても渡島経験はないという人が多いのが現状です。最近では、天売高校（定時制・普通科）を題材にしたドラマ^{※1}が放送されるなど、観光以外にも島を知る機会が増えてきています。多様な角度から天売島に関心を持っていただけたら嬉しいですね。

また、年間を通して本業（ゲストハウス）に集中できるのが理想ですが、天売島の観光シーズンは五月から八月と極端に短いため、副業をしないと生活を維持できないのが現実です。そのためゲストハウス以外にも、協力隊の時からお世話になっているデイスーツや、夜のウトウガイドツアー、フェリー会社の手伝い、遊歩道の草刈りなど、多岐にわたる仕事をしています。

今後は、四月・九月・一〇月の集客数をもう少し増やすため、地元の食材を使った夕食や、夕日・星空観賞など、宿泊者向けの体験を充実させていこうと考えています。また、現

受け入れ側からの言葉

島の若手の中心メンバーに

地域おこし協力隊という制度を利用して、天売島にも隊員が1人やって来るという話を聞いたのは、今からちょうど10年前のことです。人口300人も満たない天売島に自分と同世代の人が赴任すると聞き、嬉しかったことを思い出します。

初めて宇佐美君と会ったのは、彼がフェリーから島に降り立った時です。正直な第一印象は「大人しいので島暮らしは続かないだろう」でした。島内で初めての協力隊なので、私たち住民はもちろん、行政側もどんな活動を行なってもらえばよいのか戸惑うことも多く、いま振り返れば当初は思うような取り組みができなかったようにも感じます。それでも、島の魅力を発信したり、さまざまな行事に参加するなど宇佐美君の活動を見ていくうちに、意外とアクティブなんだな、と思うようになりました。

そんな時、島の30～40代を中心に島おこし団体「一般社団法人おらが島活性化会議」を立ち上げることにになり、彼も設立メンバーの一員に加わりました。活動内容は、地元の食材を使った商品開発や催事への参加、海鳥保護を目的としたドブネズミやマムシの駆除、体験観光の企画や運営、行政と一緒に取り組む島の森づくりなどです。宇佐美君は其中でも木育(もくいく)マイスターやシーカヤック認定ガイドを取得し団体の中心メンバーとして頑張ってくれています。

今では、観光客が少ない時期に、高齢者支援センターやフェリーターミナルの仕事、漁の手伝いなど、島の皆さんから声がかかる頼もしい存在となっています。あとは、早くお嫁さんが見つかることを願うばかりです(笑)。

(天売島おらが島活性化会議代表 齊藤 暢)

※1:NHK札幌放送局制作のドラマ「春の翼」。北海道天売高等学校がモデル。2022年5月20日に北海道内で放送された。

※2:1960年代には天売島に8,000羽以上が飛来していたが、その後10数羽まで減少。島内の保護活動の結果、2022年には33年ぶりに飛来数が100羽を超えた。

宇佐美 彰規 (うさみ あきのり)

愛知県出身。全都道府県を旅する中で天売島と出会い、その自然に惚れ込み10年ほど通った後、2013年に地域おこし協力隊として島に赴任。協力隊任期終了後、空き家を改修してゲストハウス天宇礼をオープン。

在はコロナの影響で休業中ですが、令和元年に宿の隣にオープンさせたカフェスペース「リミンカーネーション (remincarnation)」の運営も再開させていきたいです。カフェの名前は、「転生 (reincarnation)」と「民家」を掛け合わせた造語です。築七く八十年ほどの漁業の作業小屋を改修した場所で、埃をかぶっていたもの、いらなくなってもらってきたものなど、「かつてあったもの」がまた輝ける場所にしたのと考えて名づけてきました。

天売島では、かつてたくさんウミガラス(オロロン鳥)が繁殖していましたが、激減してしまいました【※2】。ニシン漁で栄えた最盛期には二五〇〇人ほどだった人口も、今ではおよそその一〇分の一です。現在、島で八〇万羽も繁殖しているウトウも、いるのが当たり前だと思っているうちに、いつの間にか「だったもの」になってしまいかもしれません。私の愛する場所が過去のものにならないよう、自分にできることを一歩ずつ進めていきたいと思えます。